



巨大筋肉
アマゾンネス姉妹

いつもと
変わらぬ
毎日

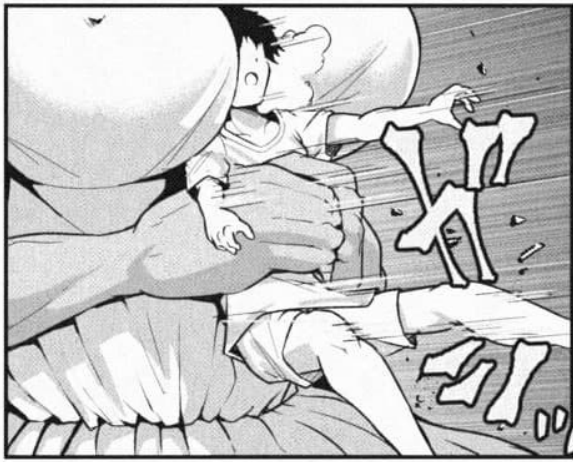
そんな
ある日
家に帰ると...

今日から私達が
お姉ちゃんね♡

部屋の
この2人が
いた：

巨大筋肉
アマゾネス
姉妹

どん



だから出ていく必要はない

突如
家に現れた
この姉妹：
この姉妹：

聞くとところによると、
両親が留守の間
面倒を見てくれるとの
ことだそうです

そんな彼女達と
生活を共に
することに
なったのですが…

とても
耐えられ
そうには
ないです…

その日の夜：
……

ギョッ

ギョッ

すいません
ちよつとトイレ：

トイレ？

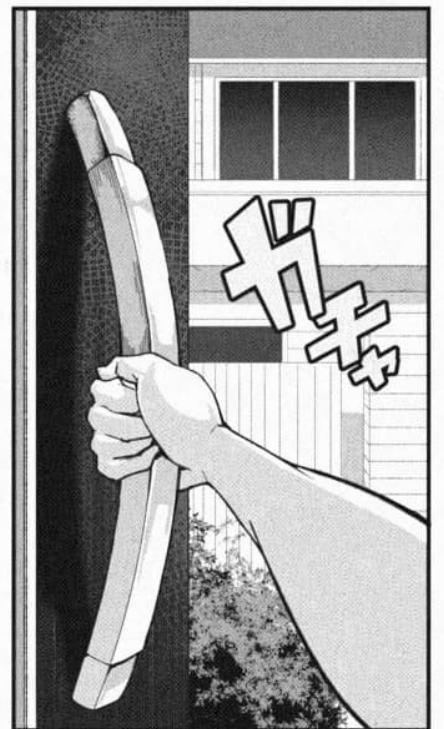
いいよ
いってらっしゃい



よし：
無事脱出！
成功！

このまま
友達の家にでも：





こんな
時間に
外に出て

なにを
しようと
してたのかな？

ごめんなさい！

お姉ちゃん達と
いても退屈
なんだよね？

だから
出ていこうと
してたん
でしょ？

ぜつ、全然
そんなこと…!?

いいの！
気を遣わ
ないで！！

ほんとは
分かってる

退屈していた
あなたの
気持ちに

これからは
退屈させない
ために

もつと可愛がつて
あげるから
出ていかないで！

気付いて
あげられなかった
お姉ちゃん達が
悪いの！！

帝！！

だだめだ。
ピクとも
しない！

逃げられない！！

だ、誰か
助けて！

ゆぽ

んげ

ニギ

叫

…ねえ？
これでどう？

こういうのが
好きなん
だよな？

これで
私の愛情を
感じてもらえる？

至らない点
が
まだ沢山あるとは
思うけど、

出ていこうと
したあなたも
もちろん反省
してよね

もし次逃げ
出そうとしたら…

全身の骨
バラバラに
しちゃうから



出て行こうと
してたつて
聞いたよ

2^{にど}度と
そんなこと
かんが
考えない
ように

しっかり
お仕置きさせて
もらうからね!!

気を失つたら
無限延長!!

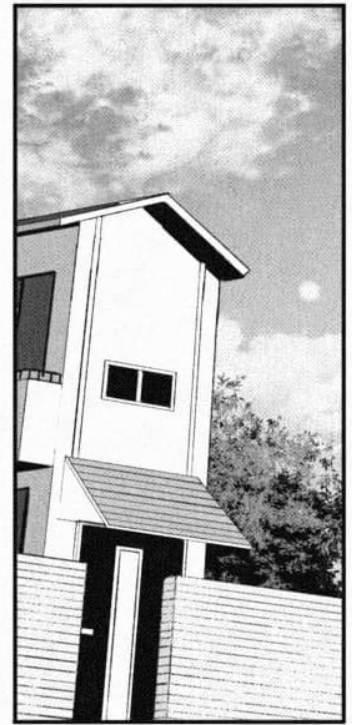
存分に
反省して
もらうよ!!

ガッ!!



日が昇った
あとも行われ
つづけた

体重数千kgにも
なるふたり
お仕置きは





脚の上
乗っていいよ

それなら
分かった

これでも
届かないの？

ごめんない
届かないです…



私に
頼って

かまって
くれなくて
寂しかった

え…っ
乗っても
だめなの？

だったら…

すみません
これでも…

んう…



一緒に
楽しむ…♡



この状態じゃ
腰上手く振れないよね？
だから私が
サポートしてあげる♡



んっ!?!
天井低すぎ…



部屋の中は
狭すぎたから

庭に
移動させて
もらったよ



さてと...



まあ、
外でやっても
倒壊することに
なるとは
思うけど

それじゃあ
再開しようか



家も
半壊状態に
しちゃったし

こればかりは
仕方ないよね



ウオーミングアップも
そろそろ終わりに
しようか

力を解放
していいって
こと!

力抑えるのに
力使ったから
ちかちか

ほんと
助かる

そろそろ
私達のペースにも
慣れてきた頃
だろうし問題
ないよね

それじゃあ
これが最後の
手加減ね♡

グニョ
グニョ

グニョ
グニョ





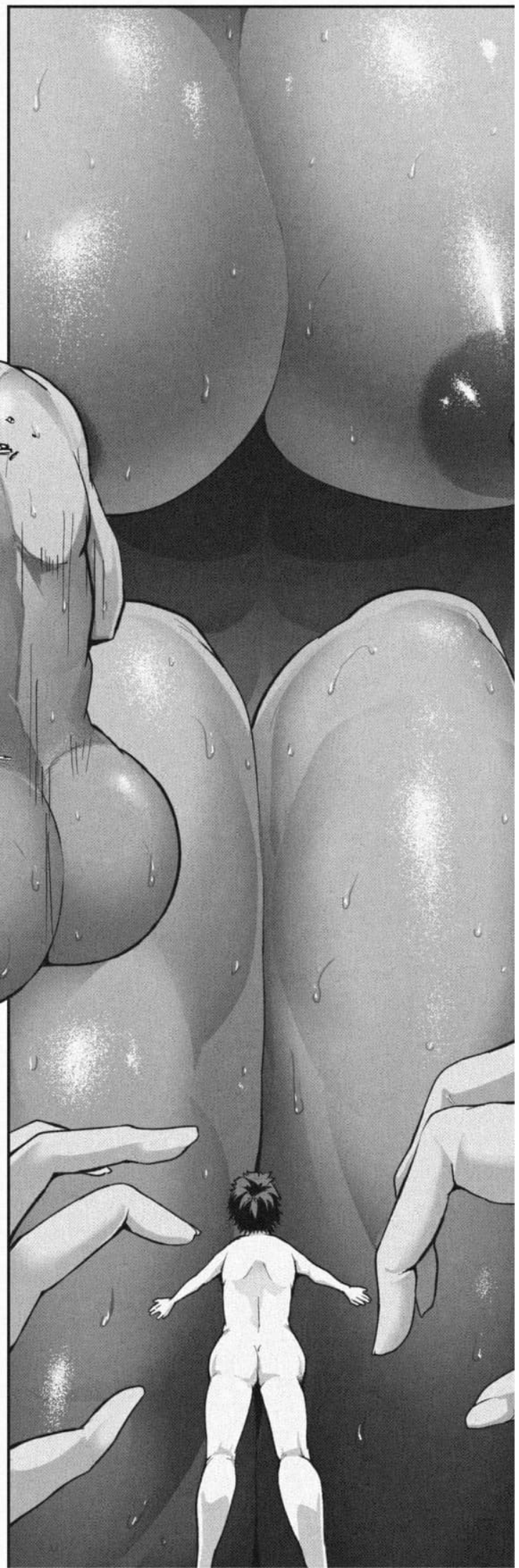


私の
太ももで
まず奉仕して
あげるね：♡

せっかく
だから2人で
包んであげる



自力で
脱出する
まで終わら
ないよ♡





あーん

あーん

あーん

あーん

ズン

ズン

無限むげんに思おもえる
パワーとスタミナ：

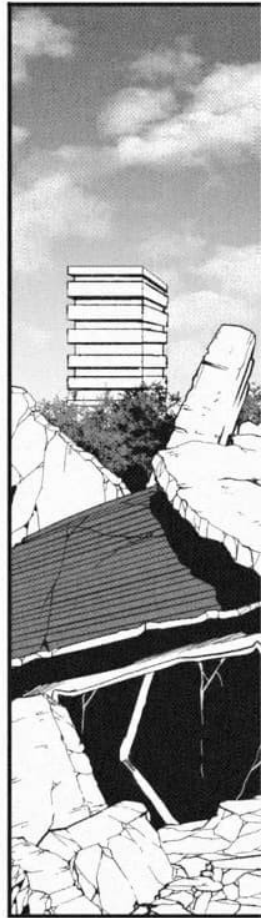
そんな力ちからを持つ
ふたり
2人との戯たわぶれは
次の日あさの朝あさまで
またしても、続つづいて
しまいました：



あら、
いつの間にか
お家壊れちゃった

んうゝ
どうしゅつか…？

逃げよ♡



それから
万力に挟まれ
家を離れることと
なった僕

その後
彼女達と生活を共に
することに
なったことは
言うまでもないことです…